

バス会社 新事業続々

運転代行やマスク、特産販売

貸し切り運行 需要激減

中、県内のバス会社が新事業に参入している。空いたドライバーを運転代行に従事させる事業所や、独自ルートで仕入れた衛生用品や海産物を販売する企業が登場。主力事業の売り上げ減を穴埋めし、雇用を維持するために知恵を絞っている。



マスクをPRする群馬福祉交通の内田社長

エイチエム交通を運営するホシノ(太田市新田金井町)は、専用車両2台を導入し、運転代行事業「ホシノ代行サービス」を6月に立ち上げた。バス運

土(同日11時)に設定。体が不自由な高齢者を主な利用者に想定する。企画した星野仁彦専務は「雇用を維持しつつ、地域のお年寄りに貢献できる事業。長距離の利用ならタクシーより安くなる」とPRしている。

GF交通バスを運行する群馬福祉交通(同市新田小金井町)は、消毒液や非接触式の温度計など独自ルートで仕入れた衛生用品の販売を開始。事業所前の店頭販売やネット通販、法人営業で売り込む。6月末には接触冷感効果がある布マスク(6枚で千円)を発売。千枚が1週間で完売したという。内田親孝社長は「品薄商品の提供で地域の役に立ちたい。オゾン発生装置も取り扱う予定」と話す。旅行など遠出を控える消費者に、全国各地の特産品を届ける事業に乗り出した企業も。群馬バス(高崎市緑町)

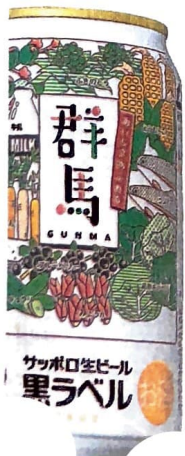
は6月、「放りま」宅配サービス」を始めた。各漁港の小売店や旅行代理店と提携。寺泊(新潟県)で取り扱うカニや海産物の詰め合わせ、那珂湊(茨城)で取り扱う、しめし身や干物、セツトなどの注文を受け付ける。北海道、福岡、鹿児島、沖縄の各県の名物料理も送料込みで購入できる。担当者は「売り上げが減少した観光地の店舗を助けた」という思いもある。家庭に居ながら旅行気分になってほしい」と呼び掛けている。

コロナで減収79% 6月の県内企業

東京商工リサーチ前を公表した。新型コロナウィルスの影響で6月の売り上げが昨年同月と比べて減少した県内企業は78.7%に上ったとする調査結果

いて回答した17のうち137社が割れとなった。12月で前年同月の半分以下に落ち込む可能性があると回答した企業は9%で、前月より1.9%改善した。在宅勤務やリモークの実施状況も調査した。「現在、している」が15.3(36社)にとどま

県産11種 いた缶発売



サッポロビールが数量限定